

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 美術学部	教育 1-1
2. 美術研究科	教育 2-1
3. 音楽学部	教育 3-1
4. 音楽研究科	教育 4-1
5. 映像研究科	教育 5-1

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
美術学部	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している
美術研究科	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している
音楽学部	期待される水準にある	期待される水準を上回る	改善、向上している
音楽研究科	期待される水準にある	期待される水準を上回る	改善、向上している
映像研究科	期待される水準にある	期待される水準を上回る	改善、向上している

注目すべき質の向上

美術学部

- 海外から多数の教員、アーティストを招へいし、特別講義、ワークショップ、研究会を実施しており、平成 27 年度には延べ 23 名の教員及びアーティストを招へいしている。また、国際交流協定校等は平成 21 年度の 31 校から平成 27 年度の 46 校へ増加している。
- 海外からのアーティストユニット誘致に対応して、平成 27 年度にはロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国）から 12 名の教授等を卓越教員として採用している。

美術研究科

- 国内及び世界各国で開催される「国際芸術祭（ビエンナーレ・トリエンナーレ）」を舞台に、連携大学（ロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国））の教員と学生による多国籍ユニット編成及びコラボレーションによる「共同制作プロジェクト」を各大学の正規の教育課程に位置付けて実行することを目的として、平成 26 年度に「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を締結し、海外の優れたアーティストを誘致している。また、平成 27 年度には連携大学と共同授業、制作及び成果発表を行う「グローバルアート国際共同カリキュラム」を開設し、新潟県で開催された国際芸術祭「越後妻有トリエンナーレ」等で成果を発表している。

映像研究科

- 国際通用性のある教育課程の編成上の工夫として、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に海外から講師を招き、講義やワークショップ等を合計 42 件行っている。また、南カリフォルニア大学（米国）から通年で教員を招へいし、平

東京芸術大学

成 27 年度に「映画学論」や「国際映像メディア論」を開講しているほか、アニメーション専攻では、平成 23 年度から芸術総合学校（韓国）と、平成 24 年度からは伝媒大学（中国）を加え、日中韓アニメーション共同制作を実施している。

- 第 2 期中期目標期間に学生が制作した作品が、ザグレブ国際アニメーション映画祭やバンクーバー国際映画祭等の国際的な映画祭で入選している。

美術学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 授業においてグループ指導・個別指導を重点的に実践しており、日常の学生の反応を確認しながら適宜指導方法を見直しているほか、教育内容及び学生の到達点を複数の教員でチェックする講評会を開催するなど、教育内容や方法について改善する体制を整えている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- すべての学科及び専攻を通して、教育課程に専門実技科目又は基礎造形実技科目を組み入れており、さらに、古美術を寺社、博物館、研究施設等で実地に見学、鑑賞し、研究することで基礎的視野を広げることを目的とした「古美術研究」を必修科目としている。
- 町おこし等でアートと社会及び経済とをつなぐ人材の需要が高まっていることから、アートマネジメントや知的財産に関する科目を開設し、現代社会における芸術の多様な在り方を教育に反映している。
- 学生の視野を広げ、国際的に活躍できる芸術家を養成することを目指して、海外で芸術文化活動を実践的に体験する「Arts Study Abroad Program (ASAP)」を平成27年度から実施している。
- 実践的な指導、伝統技法、現在の美術分野の動向等を取り入れるため、実技科目ではフィールドワークやワークショップ、社会で活躍するアーティストを招いての特別講義や講演を組み入れており、平成27年度には50件の特別講義及び講演を実施している。

以上の状況等及び美術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 外部からの評価を受けることで自らの能力の水準を確認するとともに、能力の向上等について考える機会を与えるため、課題制作及び卒業制作の作品に関して、展覧会や出版物等の様々な方法で積極的に公開しているほか、学部や学科等で展示会を組織的に開催している。
- 学生が積極的に公募展等へ出品しており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に優秀賞等、合計80件程度の賞を受賞している。
- 優秀な学生への顕彰制度を設けており、特に卒業制作に関しては全学生の作品を展示する卒業制作展を大学内の美術館と東京都美術館で毎年実施し、一般公開すると同時に図録を刊行している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 表現者等としてさらに高い水準を目指す学生が多く、例年、卒業生の半数以上が大学院へ進学している。
- 就職先については、美術学部の教育内容を活かせるデザイン関係、広告関係の企業や職種が多くなっている。

以上の状況等及び美術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 海外から多数の教員、アーティストを招へいし、特別講義、ワークショップ、研究会を実施しており、平成 27 年度には延べ 23 名の教員及びアーティストを招へいしている。また、国際交流協定校等は平成 21 年度の 31 校から平成 27 年度の 46 校へ増加している。
- 海外からのアーティストユニット誘致に対応して、平成 27 年度にロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国）から 12 名の教授等を卓越教員として採用している。
- 平成 27 年度から国際的に活躍できる芸術家の養成を目指して、海外で芸術文化活動を実践的に体験する海外派遣実践型の研修授業「ASAP」を開講している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度に実施した在学生及び卒業生へのアンケート結果では、在学生の「授業全体への満足度」の項目については 72%、「専門科目についての満足度」の項目については 76%が肯定的な回答をしている。また、卒業生の「授業全体への満足度」の項目については 83%が肯定的な回答をしている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 海外から多数の教員、アーティストを招へいし、特別講義、ワークショップ、研究会を実施しており、平成 27 年度には延べ 23 名の教員及びアーティストを招へいしている。また、国際交流協定校等は平成 21 年度の 31 校から平成 27 年度の 46 校へ増加している。
- 海外からのアーティストユニット誘致に対応して、平成 27 年度にはロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国）から 12 名の教授等を卓越教員として採用している。

美術研究科

I	教育の水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 個別指導により日常の学生の反応を確認しながら適宜指導方法を見直しているほか、教育内容及び学生の到達点を複数の教員でチェックする講評会を開催しており、教育内容や方法について改善する体制を整えている。
- ロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国）との4芸術大学による「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を平成26年度に締結し、平成27年度から実施している。
- 平成20年度から美術研究科リサーチセンターを設置しており「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究」を行い、実技を伴う芸術分野の博士課程における学位授与の審査方法及びプロセスの在り方を明確にしている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 修士及び博士作品（論文）の作成等を支援するため、個別指導やリサーチセンターでの論文執筆スキルの向上を図る特別指導プログラムを実施している。
- 平成22年度から平成24年度に実施した、東京芸術大学（G）、台東区（T）、墨田区（S）の連携により芸術環境拠点の形成と地域創成を目指した「GTS観光アートプロジェクト」では、3年間に17件の展覧会、イベント及び演奏会を行っている。
- 平成27年度から実施している「グローバルアート国際共同カリキュラム」に基づき、東京芸術大学と各連携大学（ロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国））の学生及び教員の混成チームにおいて共同調査及び制作を行い、新潟県で開催された国際芸術祭「越後妻有トリエンナーレ」等で成果発表を実施している。また、そのほかの国際交流協定校や連携機関からも多様な教員、専門家、アーティスト等を招へいし、特別講義やワークショップを継続的に開催している。

以上の状況等及び美術研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 外部からの評価を受けることで自らの能力の水準を確認するとともに、能力の向上等について考える機会を与えるため、学生が制作した作品等を、展覧会、出版物、ウェブサイト等の様々な方法で公開している。
- 修士課程では、修士制作及び論文に関して全学生の作品を展示した修了制作展を大学内の美術館で毎年度実施し、作品を直接公開すると同時に図録や論文梗概集を作成及び刊行している。博士後期課程では、博士論文や作品を展示発表する場として毎年度博士審査展を実施している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修了後の進路として、企業等へ就職した者の就職先については、専門性を発揮できるデザイン、プロダクト、建築、芸術関連の出版業界等が多くなっている。また、企業へ就職をしていない者については、個人で作家活動等を行っている者が多く、修了後にコンクール等で賞を受賞している者がいるほか、個展の開催等がマスメディアで取り上げられている。

以上の状況等及び美術研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国内及び世界各国で開催される「国際芸術祭（ビエンナーレ・トリエンナーレ）」を舞台に、連携大学（ロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国））の教員と学生による多国籍ユニット編成及びコラボレーションによる「共同制作プロジェクト」を各大学の正規の教育課程に位置付けて実行することを目的として、平成 26 年度に「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を締結し、海外の優れたアーティストを誘致している。また、平成 27 年度には連携大学と共同授業、制作及び成果発表を行う「グローバルアート国際共同カリキュラム」を開設し、新潟県で開催された国際芸術祭「越後妻有トリエンナーレ」等で成果を発表している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 修了後の進路として、専門性を発揮できるデザイン関連の業界への就職者が多くなっている。また、企業へ就職をしていない者についても、個人で作家活動等を行っている者がおり、修了後にコンクール等で賞を受賞している者がいるほか、個展の開催等がマスメディアで取り上げられている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 国内及び世界各国で開催される「国際芸術祭（ビエンナーレ・トリエンナーレ）」を舞台に、連携大学（ロンドン芸術大学（英国）、パリ国立高等美術学校（フランス）、シカゴ美術館附属美術大学（米国））の教員と学生による多国籍ユニット編成及びコラボレーションによる「共同制作プロジェクト」を各大学の正規の教育課程に位置付けて実行することを目的として、平成 26 年度に「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定を締結し、海外の優れたアーティストを誘致している。また、平成 27 年度には連携大学と共同授業、制作及び成果発表を行う「グローバルアート国際共同カリキュラム」を開設し、新潟県で開催された国際芸術祭「越後妻有トリエンナーレ」等

で成果を発表している。

音楽学部

I	教育の水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 専任教員一人当たりの学生数は 12.7 名となっており、さらに学外の兼務教員も配置することで、教育上の特色である個人レッスンや少人数のグループ指導を行える体制を整備している。
- 著名な音楽家や研究者を特別招へい教授に採用し、集中的に指導を行っている。また、世界トップレベルの人材養成を目指し、平成 27 年度から国立大学機能強化事業「国際共同プロジェクト」のユニット誘致として、26 名の世界的な演奏家及び研究者を招へいしている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の個性や能力を勘案し、学生と意見交換して課題曲を決定するなど、個別レッスンや少人数グループ指導の特色を活かし、個々の学生の発展段階に応じた教育活動を実施している。
- 集中講義や特別講座等で国内外で活躍する音楽家及び研究者を招へいし、実践的な指導や先端的分野の動向を取り入れている。また、大学内の施設である奏楽堂等を活用して学生中心の演奏会を開催するなど、学生の学習意欲を喚起するための取組を行っている。
- 大学附属の各種センターから科目提供を行っており、言語・音声トレーニングセンターでは幅広い言語種とレベルの外国語科目、演奏芸術センターでは舞台制作等に関する科目、そのほかにも、社会連携センター、芸術情報センターからも科目を提供している。また、美術学部の一部の科目履修を認め、お茶の水女子大学と単位互換制度を整備するなど、学生の多様な興味にこたえる環境を整えている。

以上の状況等及び音楽学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に国際コンクールで1位を獲得する学生がいるなど、国際レベルあるいは全国レベルのコンクールにおいて多くの学生が入賞しており、平成27年度のコンクール等における入賞件数は約70件となっている。
- 奏楽堂を利用した公開試験、教育成果発表会、モーニング・コンサート等の学内の各種の演奏会のほか、学外からの依頼公演が平成27年度に76件あるなど、学業の成果を発表する機会を多く設けている。
- 平成27年度に実施した在学生及び卒業生へのアンケート結果では、在学生の「授業全体への満足度」の項目については77%、「自身の能力の向上度」の項目については84%が肯定的な回答をしている。また、卒業生の「音楽学部全体についての満足度」の項目については90%が肯定的な回答をしている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成27年度の卒業生のうち36.4%が大学院等へ進学している。また、就職者の就職先については、教員、交響楽団、音響関係及び放送関連の企業や職種が多く、教育内容を反映した就職先となっている。

以上の状況等及び音楽学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度から世界トップレベルの人材育成と交流活動の国際発信を推進する取組として、海外の優れたアーティストやクリエイターを招へい教員として誘致する「国際共同プロジェクト」を実施しており、平成 27 年度には 26 名の世界的な演奏家及び研究者を招へいしている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間に国際コンクールで 1 位を獲得する学生がいるなど、国際レベルや全国レベルのコンクールで多くの学生が入賞しており、平成 27 年度のコンクール等における入賞件数は約 70 件となっている。
- 外部へ公開する学内演奏会を多く開催しており、そのうち、モーニング・コンサートについては、平成 25 年度から有料化しているものの、それ以降も多くの入場者があり、平成 25 年度から平成 27 年度の年度平均入場者数は 702 名（平成 22 年度から平成 24 年度の年度平均入場者数は 899 名）となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

音楽研究科

I	教育の水準	教育 4-2
II	質の向上度	教育 4-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 音楽文化専攻内に音楽教育、ソルフェージュ、応用音楽学、音楽文芸等の大学院のみの領域を設け、音楽に関わる研究領域の拡大と社会的要請の大きな分野における人材養成を可能にしている。また、複数の研究領域の教員が関わる室内楽でのアンサンブル教育の充実に取り組んでおり、多数の学外兼務教員を起用し、発表のための助演者や伴奏助手を設定するなど、より高度な表現を身に付けるための支援体制を整えている。
- 修士課程の実技を中心に学修する専攻では、学位取得の方法を弾力化し、演奏と研究への比重を学生個々の特性に応じて選択することを可能にしている。また、博士後期課程では、学位委員会が教育内容及び方法の改善に取り組み、音楽研究科リサーチセンターと連携して博士後期課程学生の論文作成支援を行っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 異なる専攻の複数の教員による横断的で重層的な学習指導、アンサンブル教育、「音楽文芸総合演習」等の討論形式の授業科目を設けており、学生の研究内容の深化を目指した多角的な授業形態を取り入れている。また、お茶の水女子大学や東京外国語大学との単位互換制度を整備し、音楽文化にとどまらない様々な分野の最新の研究に触れる機会を設けている。
- 修士課程における「修士リサイタル」、博士後期課程における「博士リサイタル」、定期演奏会等の学内演奏会への参加、学外からの依頼演奏や国内外の学会等での研究発表等、学生が学業の成果を公表する場を多数提供している。また、特別講座等の課程外の授業を数多く開講しており、各界の第一人者である外部講師による講演や指導を受ける機会を設けている。

以上の状況等及び音楽研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に国際コンクールで1位を獲得する学生がいるなど、国際レベルあるいは全国レベルのコンクール等において多くの学生が入賞しており、平成27年度のコンクール等における入賞件数は約40件となっている。
- 平成22年度から音楽文化学専攻の博士後期課程の学生による査読付き論文を掲載した『音楽文化学論集』を刊行し、第1号（平成23年3月発行）から第6号（平成28年3月発行）までに合計80本の論文を掲載している。
- 平成27年度に修了生を対象として実施したアンケート結果では、「東京芸術大学及び卒業・修了した学部・研究科にどの程度満足しましたか。」という設問について、修了生の93%が肯定的な回答をしている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 修了生の中には、全国レベルあるいは国際レベルのコンクール等で高い評価を得た者が多く、著名なオーケストラに就職して音楽家として活躍している者もいる。また、大学教員として就職している者も一定数おり、第2期中期目標期間における修士課程の修了生合計201名のうち32名、博士課程の修了生合計97名のうち73名が大学教員として就職している。

以上の状況等及び音楽研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 20 年度から平成 24 年度の間には音楽研究科リサーチセンターを設置し、実技に基軸を置いた博士後期課程の教育研究について国内外の取組を調査し、研究指導や学位審査の在り方について検証を重ねるなど、大学院生の論文作成の支援体制を整備している。
- 平成 26 年度に設置した音楽創造・研究センターでは、音楽家のための起業家的な精神とスキルの養成支援である、アントレプレヌール支援の領域における国際的な動向を調査し、音楽芸術に関する社会発信方法の開発や新時代の芸術創造を担う人材育成等に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間に国際コンクールで 1 位を獲得する学生がいるなど、国際レベルあるいは全国レベルのコンクール等において多くの学生が入賞しており、平成 27 年度のコンクール等における入賞件数は約 40 件となっている。
- 第 2 期中期目標期間における修士課程の修了生合計 201 名のうち 32 名、博士課程の修了生合計 97 名のうち 73 名が大学教員として就職している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

映像研究科

I	教育の水準	教育 5-2
II	質の向上度	教育 5-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 専任教員以外に技術者、アーティスト、プロデューサー等の専門家を特別講師、非常勤講師として招へいし、専任教員の指導をサポートしている。また、外国人アーティストや教員の招待講演を年間7件程度行うなど、現場で活躍するプロフェッショナルから実学や国際性を学ぶことができる環境を整えている。
- 個別指導により日常の学生の反応を確認しながら適宜指導方法を見直しているほか、教育内容及び学生の到達点を複数の教員でチェックする講評会を開催するなど、教育内容や方法について改善する体制を整えている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 国際通用性のある教育課程の編成上の工夫として、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に海外から講師を招き、講義やワークショップ等を行った件数は合計42件となっている。また、南カリフォルニア大学（米国）から通年で教員を招へいし平成27年度に「映画学論」や「国際映像メディア論」を開講している。
- 実制作を教育内容の根幹としており、そのために必要な校舎、施設を横浜市との協定に基づいて確保し、学生による作品制作のためのスタジオや設備を整えている。

以上の状況等及び映像研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 外部からの評価を受けることで自らの能力の水準を確認するとともに、能力の向上等について考える機会を与えるため、教育研究成果を展覧会等を通じて発表している。また、アニメーション専攻と音楽学部音楽環境創造科及び大学院音楽研究科音楽文化学専攻とのコラボレーションによって制作した作品をインターネット等を通じて公開している。
- 第2期中期目標期間に学生が制作した作品が、ザグレブ国際アニメーション映画祭やバンクーバー国際映画祭等の国際的な映画祭で入選している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間に修了した学生の多くはフリーランスとして映像関係分野での仕事に従事しており、修了後に発表した作品が国際的な映画祭等で賞を受賞している者、デビュー作が決定した者や起業した者もいる。

以上の状況等及び映像研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国際通用性のある教育課程の編成上の工夫として、第2期中期目標期間に海外から講師を招き、講義やワークショップ等を合計42件行っている。また、南カリフォルニア大学（米国）から通年で教員を招へいし、平成27年度に「映画学論」や「国際映像メディア論」を開講しているほか、アニメーション専攻では、平成23年度から芸術総合学校（韓国）と、平成24年度からは伝媒大学（中国）を加え、日中韓アニメーション共同制作を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間における修士課程の標準修業年限内での学位授与率は、平均80%程度となっている。
- 第2期中期目標期間に学生が制作した作品が、ザグレブ国際アニメーション映画祭やバンクーバー国際映画祭等の国際的な映画祭で入選している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 国際通用性のある教育課程の編成上の工夫として、第2期中期目標期間に海外から講師を招き、講義やワークショップ等を合計42件行っている。また、南カリフォルニア大学（米国）から通年で教員を招へいし、平成27年度に「映画学論」や「国際映像メディア論」を開講しているほか、アニメーション専攻では、平成23年度から芸術総合学校（韓国）と、平成24年度からは伝媒大学（中国）を加え、日中韓アニメーション共同制作を実施している。
- 第2期中期目標期間に学生が制作した作品が、ザグレブ国際アニメーション映画祭やバンクーバー国際映画祭等の国際的な映画祭で入選している。